



# 登米地域の稲作通信 第5号

令和5年7月3日発行  
 宮城県米づくり推進登米地方本部  
 宮城県登米農業改良普及センター  
 Tel: 0220-22-6127

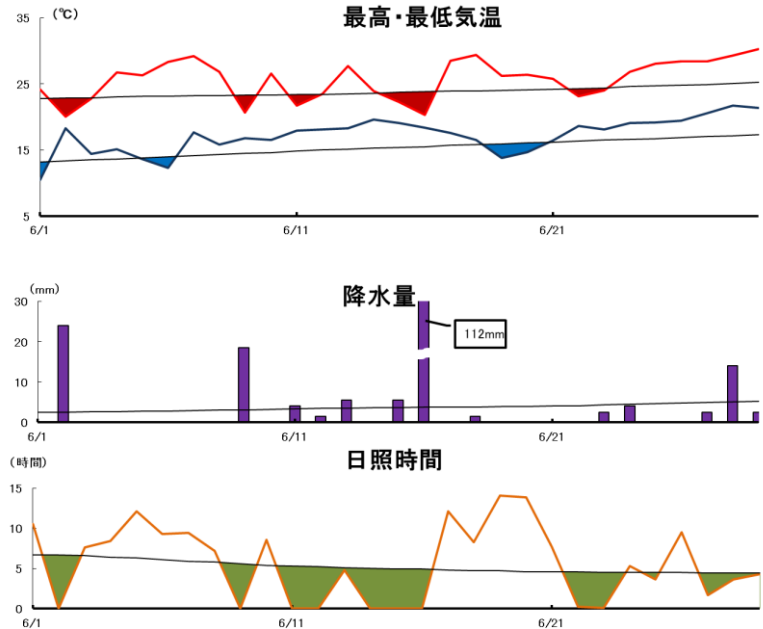


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

## 【気象経過】

6月下旬の気温は、最低・最高気温ともに平年を上回り推移しました。降水量は平年比61%、日照時間は平年比89%と曇りの多い月となりました。

観測地点：米山アメダス



## 【移植栽培】

### 1 生育状況

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m <sup>2</sup> )	田植月日(平年差)	6月20日			6月30日			備考
						草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	草丈(cm)	莖数(本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町	15.2	5月18日	39.6	313	45.5	51.6	509	39.9	
						前年比・差 ±0日	123%	129%	4.4	98%	117%	-4.2
					5月18日	110%	91%	4.5	101%	109%	-2.7	
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.5	5月16日	40.0	290	44.9	50.5	501	40.6	
						前年比・差 +2日	136%	127%	5.3	101%	118%	-4.2
					5月16日	125%	117%	5.0	107%	115%	-3.2	
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.1	5月16日	36.7	314	44.7	49.6	509	39.6	
						前年比・差 +6日	132%	167%	4.4	108%	123%	-6.6
					5月16日	121%	113%	3.0	109%	106%	-4.6	
4	ササニシキ	Cタイプ(復活サシキ)	豊里町	15.8	5月12日	40.7	313	41.7	49.1	528	39.1	
						前年比・差 ±0日	115%	244%	3.5	103%	167%	-3.4
					5月12日	113%	77%	-0.2	100%	92%	-1.9	
5	だて正夢	-	迫町	21.7	5月21日	34.6	239	43.0	48.5	530	41.9	
						前年比・差 +4日	101%	74%	1.2	89%	112%	-2.0
					5月21日	91%	52%	1.8	85%	95%	-2.7	
6	金のいぶき	-	登米町	19.5	5月9日	45.5	493	48.0	59.6	690	40.9	
						前年比・差 -5日	139%	125%	7.0	116%	114%	-2.7
					5月9日	123%	108%	3.9	112%	107%	-1.3	

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分，化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（平成30年～令和4年）の平均値。

※金のいぶきは調査3年目のため、過去2か年の平均値を使用。

6月30日現在ひとめぼれの草丈、茎数は平年を上回り、葉色は平年を下回っています。だて正夢の草丈、茎数、葉色は平年を下回っています。金のいぶぎの草丈、茎数は平年を上回っています。なお、いずれのほ場も葉色は前回より低下しています。

## 2 今後の管理

### (1) いもち病対策

＜6月26日発行 宮城県病害虫防除所＞発生予報第5号

#### 葉いもち

発生時期：平年並（発生開始期7月第1半旬：7/1～7/5）

発生量：平年並

- ・巡回調査の結果、残苗の放置筆率及び発病筆率はともに平年並であった。また、巡回調査における本田の初発確認は6月15日で平年より早かった。
- ・平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1ヶ月の平均気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況（BLASTAM）によると、6月12日、24日に広域的に感染好適条件及び準好適条件が出現しているため、茎数が多く、葉色の濃いほ場は注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米で発生がみられた場合はJAにご相談ください）。

### (2) 紋枯病対策

高温年では紋枯病の発生が多くなる傾向があります。特に、昨年発生したほ場では、ほ場に菌が残っており本年も発生することが懸念されます。紋枯病は、倒伏の原因にもなるので、多発が予想されるほ場では、薬剤による防除を行いましょう。

要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です。（環境保全米で防除を検討する場合は、JAまでご相談ください。））。

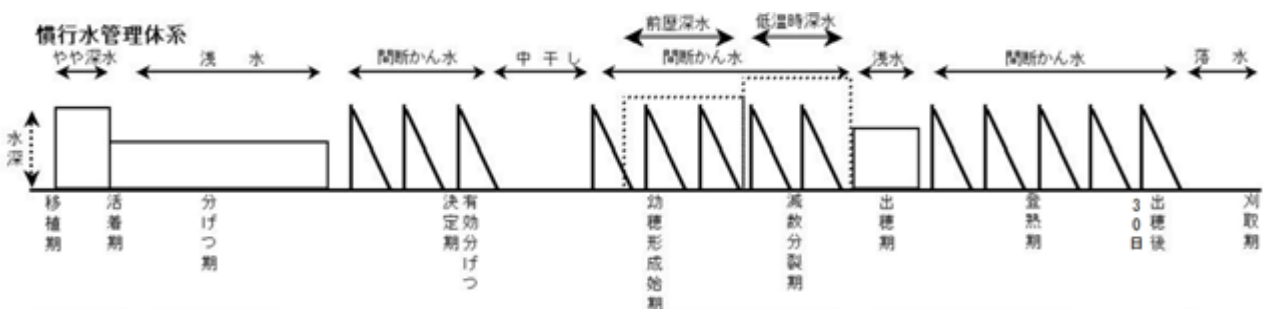
### (3) 生育状況に応じた水管理

管内の過去5か年平均の出穂期は、8月1日です。

中干しは（5）生育ステージの予測値を参考に幼穂形成期（幼穂長1mm程度）までに終了しましょう。

#### 中干しの主な効果

- ① 土壌中に酸素を送り、根の活力を高める効果。
- ② 稲の窒素吸収を抑制し、**無効分げつの発生を抑制**する効果。
- ③ 作土層を硬くすることにより、収穫作業を行いやすくなる。



水管理の模式図

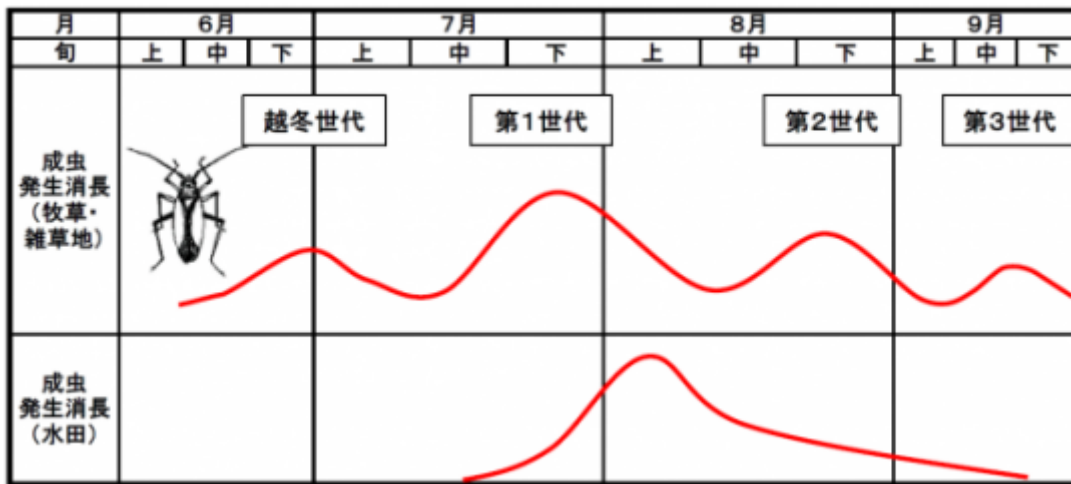
#### (4) 斑点米カメムシ類対策の畦畔除草

イネ科雑草（特にイタリアンライグラス等）の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。アカスジカスミカメ第1世代幼虫の発生ピークとなる7月上～中旬が除草適期となります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の**出穂15～10日前まで**に終了するようにしましょう。管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日ですので、**遅くとも7月23日までに草刈りを終了するように**しましょう。

#### ○アカスジカスミカメの生態について

アカスジカスミカメは卵で越冬し、春にふ化して幼虫となり、5回脱皮を繰り返したあと成虫（越冬世代）になります。この越冬世代成虫が産卵し、その卵から第1世代が誕生します。その後同じように第2世代、第3世代と繰り返されます。秋になり、日長が短くなると、休眠卵を産んで越冬に備えます。



#### (5) 生育ステージの予測値

生育ステージの予測値（6月30日現在）

移植日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	6/29～7/3	7/1～7/5	7/4～7/7	7/8～7/11	7/11～7/15
出穂期	7/28～7/31	7/29～8/1	8/1～8/3	8/4～8/6	8/6～8/9

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。平均気温は6月28日までの米山アメダスの実測値。

移植時の葉齢を2.5～3.5葉とした生育ステージの予測値を算出しました。5月10日に移植した場合、幼穂形成期は7月1日～7月5日頃、出穂期は7月29日～8月1日頃となる見込みです。

#### (6) 追肥

葉色が低下してきています。ほ場をよく観察し、追肥の判断をしましょう。

環境保全米で有機質肥料を追肥に用いる場合は、有機質の分解に時間を要するので化学肥料よりも早めに施用しましょう。

環境保全米では、栽培期間中（育苗+本田）に使用する化学肥料の窒素分量が決まっています（合計3.5kg/10a）ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

表 追肥の目安

肥料	窒素成分含有率 (%)	有機窒素の割合 (%)	施用時期	施用現物量 (化学肥料窒素成分量)
環境保全米有機入肥料 ヘルシーライス有機2号	8.0	56	有効茎確保期 (出穂35~40日前)	20kg/10a (0.7kg/10a)
NK化成C68号	16.0	0	減数分裂期 (出穂10~15日前)	6.25kg/10a (1.0kg/10a)

表 生育ステージと生育量の目安

ひとめぼれ	幼穂形成期 7月10日頃	減数分裂期 7月20日頃
草丈(cm)	56~59	66~69
茎数・穂数(本/㎡)	470~530	450~500
葉色(SPAD)	38~40	35~37
追肥窒素量目安(kg/10a)	1	1

金のいぶき	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃
草丈(cm)	65~70	80~85
茎数・穂数(本/㎡)	570~620	490~540
葉色(SPAD)	33~35	30~32
追肥窒素量目安(kg/10a)	1	1

ササニシキ	幼穂形成期 7月13日頃	減数分裂期 7月23日頃
草丈(cm)	62~68	-
茎数・穂数(本/㎡)	720~760	550~580
葉色(SPAD)	34~36	32~34
追肥窒素量目安(kg/10a)	-	1~1.5

つや姫	幼穂形成期 7月16日頃
草丈(cm)	70~75
茎数・穂数(本/㎡)	550~580
葉色(SPAD)	35~37
追肥窒素量目安(kg/10a)	2

だて正夢	幼穂形成期 7月15日頃	減数分裂期 7月25日頃
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数・穂数(本/㎡)	390~460	380~420
葉色(SPAD)	40~42	37~39
追肥窒素量目安(kg/10a)	-	2

### だて正夢の栽培ポイント ~ 追肥について ~

「だて正夢」は登熟歩合と干粒重を高めるため、**減数分裂期追肥（窒素成分で2kg/10a）を基本とします。**ただし、有効茎数の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10a ずつ追肥し、適正籾数の確保と登熟向上を図ります。

「草丈(cm)×茎数(本/㎡)×葉緑素計値÷100,000」で倒伏の判断ができます。品質低下を防ぐため、次の薄灰色セル及び濃灰色セルの場合は、幼穂形成期の追肥を見送りましょう。

表 「だて正夢」の倒伏判断指標  
<幼穂形成期> <減数分裂期>

茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計値(SPAD-502Plus)					
		38	40	42	44	46	48
400	50	7.6	8.0	8.4	8.8	9.2	9.6
400	55	8.4	8.8	9.2	9.7	10.1	10.6
400	60	9.1	9.6	10.1	10.6	11.0	11.5
400	65	9.9	10.4	10.9	11.4	12.0	12.5
400	70	10.6	11.2	11.8	12.3	12.9	13.4
400	75	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4
400	80	12.2	12.8	13.4	14.1	14.7	15.4
400	85	12.9	13.6	14.3	15.0	15.6	16.3
500	50	9.5	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0
500	55	10.5	11.0	11.6	12.1	12.7	13.2
500	60	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4
500	65	12.4	13.0	13.7	14.3	15.0	15.6
500	70	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8
500	75	14.3	15.0	15.8	16.5	17.3	18.0
500	80	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2
500	85	16.2	17.0	17.9	18.7	19.6	20.4

注) 茎数、草丈、および葉緑素計値以外の数値は生育量(草丈×茎数×葉緑素計値÷100,000)を示す。生育量が幼穂形成期 10.4~12.1, 減数分裂期 12.2~13.3 (灰色セル)は25~50%, 幼穂形成期 12.2以上, 減数分裂期 13.4以上(濃灰色セル)は50%以上の確率で立毛角度が40°を下回る程度に倒伏し、品質が低下する。

# 【直播栽培】

## 1 生育状況

【水稲生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		苗立ち本数 (本/m <sup>2</sup> )	6月20日			6月30日			備考
							草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	
1	ひとめぼれ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月24日		174	38.3	289	39.7	45.4	474	35.8	
							前年比・差 97%	168%	108%	4.6	101%	125%	
2	ササニシキ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月20日		113	30.6	93	37.4	34.0	258	37.7	
							前年比・差 141%	83%	76%	2.8	82%	79%	
3	つきあかり	ブヲ耕 グレンドリル 体系	豊里町 (鞆波)	4月24日		137	43.1	178	38.3	50.8	328	39.8	
							前年比・差 109%	153%	122%	2.5	109%	124%	

※平年値は、ひとめぼれは過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

※ササニシキ、つきあかりは調査3年目のため過去2か年の平均値を使用。

6月30日現在、ひとめぼれの茎数、葉色は平年を下回っています。

ササニシキ、つきあかりの茎数は平年を下回っています。

## 2 今後の管理

### (1) 生育状況に応じた水管理

乾田直播では播種時の鎮圧によりほ場が固いので、収穫機械作業に支障がないことから、中干しは不要です。ただし、播種深度が浅く、根の支持力が弱い場合は、中干しを行います。

### (2) いもち病対策 ～天候や品種によっては多発することもあります。発生に注意!!!～

予防防除を行った場合でも、発病が見られたときは茎葉散布剤で速やかに防除してください。

### (3) 追 肥

【乾田直播調査ほの幼穂形成期、減数分裂期、出穂期の過去平均】

No.	品 種	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
1	ひとめぼれ	7月18日	7月28日	8月12日
2	ササニシキ	7月19日	7月27日	8月9日
3	つきあかり	7月14日	7月24日	8月5日

※平年値は、ひとめぼれは過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

※ササニシキ、つきあかりは調査3年目のため過去2か年の平均値を使用。

葉色の低下が見られたら、穂肥を実施しましょう。

【追肥の目安】

NK化成C68号

- ・減数分裂期(出穂10～15日前)に施用

※幼穂形成期(出穂20～25日前)の多量の追肥は、倒伏につながるので注意します。

- ・窒素成分含有率 16.0%

- ・施用現物量(化学肥料窒素分量) 10kg/10a(1.6kg/10a)

6月～8月は「農業危害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。